

# ボールの特性レポート

## BALL REPORT



ボール名 <b>ライジング・スペシャルエディション</b>	投球者 <b>徳江 和則</b>	センター <b>平和島スターボウル</b>
RG <b>2.470</b>	△RG <b>0.057</b>	●ピン ★PAP ✕CG ■バランスホール

**テストボール：ライジング・スペシャルエディション**

フレアーの幅  インチ

表面加工  
 箱出し状態  
 加工  
 ペーパー  
 ポリッシュ

PAPからピンとの距離  インチ

4 1/2 インチ

4in MB

**比較対照ボール：アップ・ライジング**

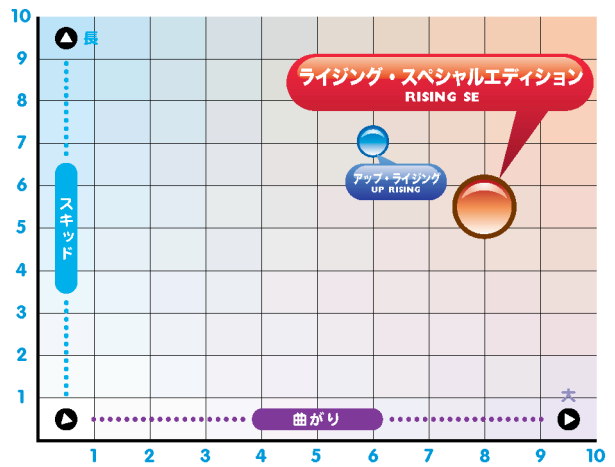
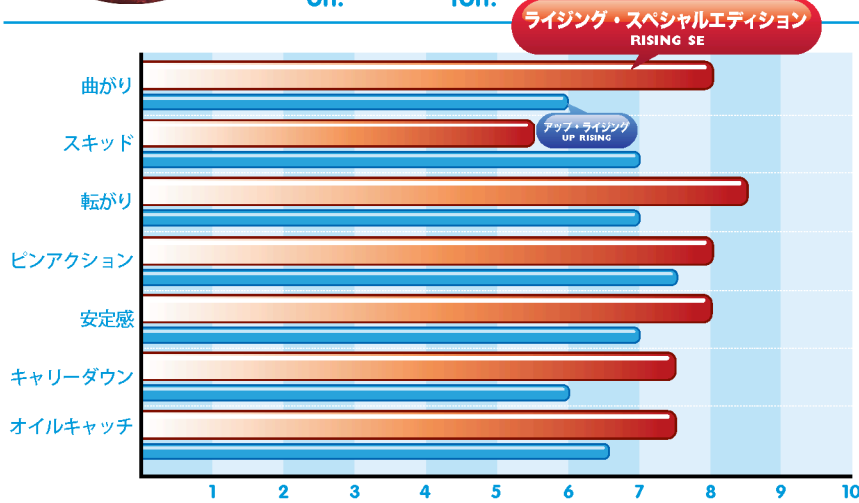
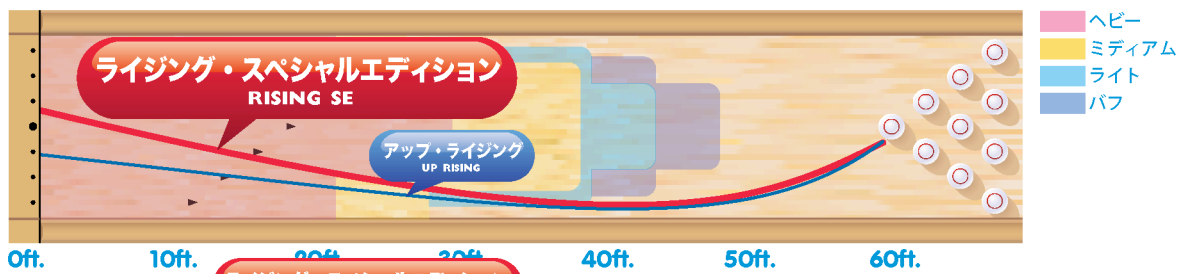
フレアーの幅  インチ

表面加工  
 箱出し状態  
 加工  
 ペーパー  
 ポリッシュ

PAPからピンとの距離  インチ

4 1/2 インチ

4in MB



### ボールの評価

昨年ABSジャパンオープンで山本勲プロ・関根直子プロダブル優勝を支え、数多くの好成績を残すことを使命とされたRISING。記憶に新しい今年のラウンドワンカップでも井口直之プロを優勝に導いたのも後継機RISING SUNでした。その類まれなるパフォーマンスの真髄はトラック社独自の7ポンドにも及ぶMEGA TRONコアであり、このMEGA TRONコアを使用し、オイルに対しての強さと攻撃的にラインを攻めるアグレッシブさを開発コンセプトとして、今回このRISING SEをリリース致します。初代RISING及びUP-RISINGと比較投球したイメージは、まず根本的に差を感じるのが転がりの良さです。今までのRISINGシリーズとは明らかに転がり感が異なり、自分のボールがかなり転がって見える程です。そして今回開発コンセプトとして打ち出したアグレッシブな動きをバックエンドで強調させられるよう、カバーストックから数値化まで吟味された仕上がりはRISINGシリーズで最もバックエンドでの動きを強調させながら初代RISINGと同等ぐらいのオイルに対しての強さを兼ね備えた「強烈な武器」として仕上がりました。

オイルキャッチが強くてもスキッドを確保でき、良く転がりながらミッドエリアでパワーロスする事なく、バックエンドでのアグレッシブな動きの差を軌道ビデオで感じて頂けると思います。

昨年初代RISINGが多くの優勝を支えることのできた、それ以上にこのRISING SEもこれから多くの伝説を残す名品となるでしょう。

### 特記事項

**RISINGのイメージを覆す、オイルに対しての強さを感じながら、シリーズ中最もアグレッシブにバックエンドモーションを感じる事のできるボールです。**